S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

2010年10月13日

手足口病・ヘルパンギーナ・無菌性髄膜炎

手足口病、ヘルパンギーナは、主にエンテロウイルスにより引き起こされる疾患です。また、無菌性髄膜炎は、多種多様なウイルスが原因となりますが、全体の 85%はエンテロウイルスが関与しているといわれています。

2008 年 1 月から 2010 年 9 月までに、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターへ搬入された検体は、手足口病 31 件、ヘルパンギーナ 21 件、無菌性髄膜炎 70 件の計 122 検体で、そのうち 60 検体からウイルスが検出されました。

2010 年の手足口病では、全国的にエンテロウイルス 71 型(EV71)の流行が報告され、県内でも 3 検体から検出されましたが、県内の流行状況の把握には至っていません。

また、ヘルパンギーナでは、2008 年と 2010 年に多くの種類の血清型が検出されており、全国的にも特定の血清型による流行は報告されていません。

無菌性髄膜炎では、ムンプスウイルス(MV)が毎年検出されているほか、エコーウイルス 6 型(E6)と EV71 は複数年で検出されています。手足口病からも検出されている EV71 は、中枢神経症状を始めとする重症化の可能性が高い血清型と言われており、今後の動向には注意が必要です。しかし、検体数が少なく、県内の流行状況を把握することが、困難な状況にあります。病原体定点医療機関で当該疾患と診断された場合、県内の流行を把握するために積極的な検体採取にご協力お願いします。

臨床診断名別ウイルス検出状況(2008 年 1 月~2010 年 9 月)

臨床診断名	年	検体数	検出ウイルス*										
			CA2	CA4	CA6	CA10	CA16	CB1	E6	E30	EV71	MV	その他
手足口病	2008	10		1	2		3						
	2009	9			2						2		
	2010	12			2		3				3		2
ﾍﾙﾊﾟﾝｷﾞｰﾅ	2008	11	1		2	5	1						
	2009	2											1
	2010	8	3	1	2	1							1
無菌性髄膜炎	2008	34						3	2	3		2	2
	2009	21									1	1	1
	2010	15							3		2	2	

* CA:ｺｸｻｯｷｰｳｲﾙｽ A 群　CB:ｺｸｻｯｷｰｳｲﾙｽ B 群　E:ｴｺｰｳｲﾙｽ

EV:ｴﾝﾃﾛｳｲﾙｽ　MV:ﾑﾝﾌﾟｽｳｲﾙｽ